

「令和」を揮毫

茂住さん書展

名古屋栄三越

新元号「令和」を揮毫した書家、茂住善郁さんの書展が2日、名古屋市中区の名古屋栄三越7階で始まっ



た「写真」。入場無料。8日まで。

茂住さんは岐阜県飛騨市（旧古川町）の出身。内閣府で辞令類を墨書し、長嶋茂雄・巨人軍終身名誉監督らの国民栄誉賞の賞状なども担当した。昨年3月に退官して書家としての活動を本格化し、個展をパリや東京、岐阜県高山市、地元飛騨市で開いた。読売書法会の理事も務める。

名古屋での個展に向け、新たに制作した作品を含め、漢字最古の書体とも言われる甲骨文字や楷書などの中小規模な作品62点を出展。あらためて揮毫した「令和」をはじめ、龍、鳳、

亀にからむ巳、虎を甲骨文字で表現した「四神」（縦110センチ、横70センチの2枚組み）などの作品が並ぶ。茂住さんは「甲骨文字は漢字の起源ともされ、生命力を感じる。文字から何かを感じてほしい」と話した。



団体戦で上位入賞した参加者